

こんな活動やっています



きぬがさ山「里山に親しむ会」

つたえよう、子供達や孫達にふる里の山を！

孫達にふる里の山を！

きぬがさ山「里山に親しむ会」は、能登川、五個荘、安土にまたがるきぬがさ山を憩いの森林空間に整え、かつて親しまれた「里山」を甦らせるため、保全・整備活動を行っています。現在では会員数三十五名となり、旧五個荘町から借り受けた「あじさい・さくら公園」の管理棟（ログハウス）を活動拠点としています。

地域住民の方々と登山者が里山を散策でき、楽しく自然に親しむことができる森林づくりを目指し、登山道の除草、倒木の除去、道標改修の他、山に生息する動植物の調査も実施しています。

きぬがさ山の山頂付近から見えるパノラマは絶景で、眼下に湖東平野、遠くに琵琶湖と比良・伊吹・鈴鹿の山々が望めます。より多くの方々にこのすばらしい展望を見ていただき、「こんな素敵なおとこがあるのか」と認識していただくため、もつときれいに整備し、わかりやすい道標を設置していきたいと思っています。

一方、小学校・幼稚園の遠足の案内や、わくわく発見隊「自然の達人」での子供たちを招いたきぬがさ山の

散策やきのこ研修会などイベントのサポートもしています。

「里山に親しむ会」の夢は、「あじさい・さくら公園」の裏山に子供たちの夢のハウス「ツリーハウス（樹上の家）」を作ることです。ただこの夢を実現するためには費用がかかります。そのため研究してきた間伐材のログハウス「男の隠れ家」（六畳）が完成まじかになっており、ローコストで買っていたただける作品に仕上げべく日夜研鑽しています。

「トムソーヤの冒険」でおなじみの冒険心をくすぐる「ツリーハウス」を通して、子供の頃に遊んだ里山探検のように、今の子供たちにもこの素晴らしい自然と楽しくふれあってもらい、ふる里の山を伝えていきたいです。



きぬがさ山「里山に親しむ会」
代表 永田 久
〒529-1404 東近江市宮荘町 631-9
TEL 携帯 090-8573-9208
ログハウス 0748-48-3433
FAX 0748-48-3433

本誌ではこのように森林で楽しんでいる活動団体や地域の木の利用に取り組んでいる団体を募集しています！



織山

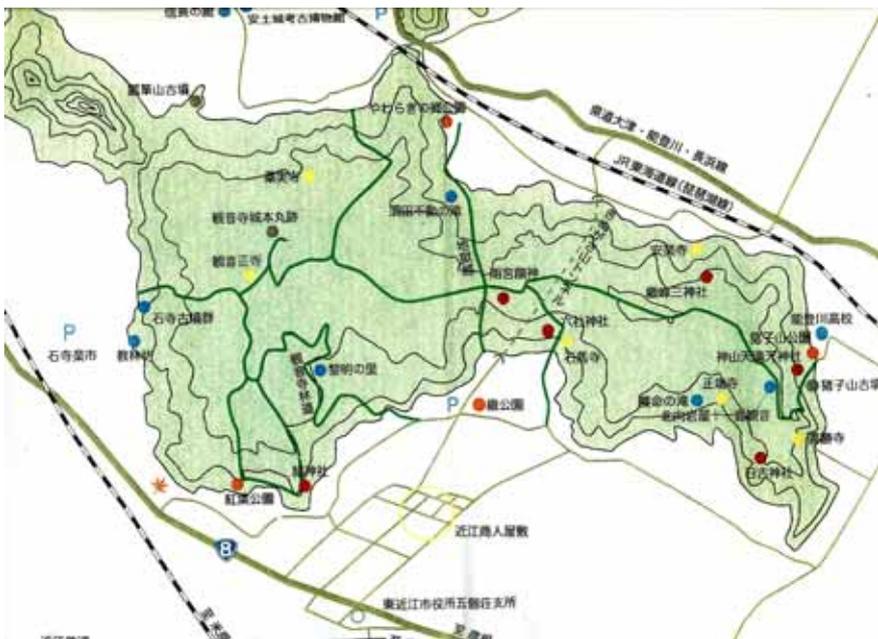
きぬがさやま

絹をかぶったようなゆったりとした形から、この呼び名がつけられたといわれるこの山は、とても見晴らしのいいところです。五個荘側から、観音正寺へ、タクシーで向かう観光コースは有名ですね。交通の要衝で、近江一円を望めるこの地に、山城があった

ことは、この山を訪れた方なら納得ですが、実はあまり知られていません。南北朝の内乱期、たびたび戦場となった観音正寺に本格的な山城、観音寺城が築城されたのは一五三〇〜一五五〇年代のことと考えられます。日本最大の中世山城といわれたこの城、一五六八年に織田信長の攻撃を受けあつげなく開城された後は、安土城の支城として利用されたとも言われています。

この山、気をつけたいのが「火」です。発掘調査により観音寺城が大規模な火災にあったことがわかっています。また平成五年には観音正寺の本堂が火災に見舞われ焼失、平成一三年には織山林野火災にて約五七ヘクタールが焼失しています。聖徳太子が人魚の願いをかなえるために建立したといわれる観音正寺ですが、水よりも火に縁があるようです。お出かけの際には、火の元に十分ご注意ください。

織山の歴史や散策には、サンライズ出版「近江旅の本」戦国からの近世の城下町 石寺・安土・八幡「が参考になります。



ナラ枯れってなあに？

皆さんは、今年の梅雨明け頃から秋にかけて、右下の写真のように赤くなった木を見かけませんでしたか？これは少し早い紅葉のように見えますが、実は「ナラ枯れ」または「ナラ類集団枯損」等と呼ばれる森林被害です。枯れているのはコナラやクヌギ、シイ類やカシ類など「ドングリ」のなる木で、木の根元にはきな粉のような木くずが積もり、幹の表面には数ミリの小さな穴が無数に開いていることが特徴です。

ナラ枯れの直接の原因は、「カシノナガキクイムシ」(以下「カシナガ」と略記)という体長4ミリほどの虫が木に穴を開けて運び込んだ菌類が穴の中で繁殖して「道管」を詰まらせ、水がストップすることです。カシナガの成虫は6月初め頃から木に穴を開け始め、水不足になった木は枯れ始めてから1~2週間という速さで全ての葉が赤くなってしまいますが、カシナガが穴を開けた木は全て枯れるわけではありません。

ナラ枯れの防除方法としては、被害木のくん蒸や焼却で木の中のカシナガ幼虫を駆除する方法のほか、幹にシートを巻き付けて被害木からの新成虫の脱出を阻止、または被害に遭っていない木に穴を開けるのを防ぐ方法があります。

カシナガは古くて大きな木を好んで繁殖します。私たちの生活様式の変化により里山では薪や炭の生産のための伐採がされなくなり、老齢の大径木が多くなったことが被害の拡大を加速させていると言われています。被害を拡大させないためには、里山を整備し、木々を若返らせることが必要ではないでしょうか。

全国では1980年代の終わりごろからナラ枯れの被害が拡大し始めました。滋賀県では平成2年ごろから湖北・湖西地域で被害が見られるようになり、昨年度、この東近江地域でも被害が発生しました。今年の森林整備課の調査では、旧八日市市・旧蒲生町・日野町・竜王町では、ナラ枯れの被害は見られませんでした。来年度、これらの地域で「ナラ枯れかな？」と思われる木を見つけれられた方は、森林整備課までご一報ください。



2030年 あなたならどっち？

今から23年後の滋賀県ってどうなっているんでしょう？このまあいっただらA?それともB?どちらに進むかは、今の私たちの選択にかかっているのかも？

A



B



漫画・オノミユキ

NEWS

森の名手・名人!



東近江市永源寺林業研究グループの川嶋康夫さんが選ばれました！詳しくはHPで！



斧(おの)



昔、人は木を伐るときには山の神にお祈りをした。本来ならばお供えをするのだが、山の中であるためその気持ちを斧に刻んだ。片方に3本、もう片方に4本。3本の方をミキといい御神酒を表す。4本の方をヨキといい地水火風の自然の力を意味し、自然から受ける恵みである五穀を表す。山の神に、木を育ててくれた

ことへの感謝、木を伐ることへの許し、作業の安全などを祈願した。

それとは別に斧のことをヨキと呼ぶ。斧を“自然の力が宿るもの”としたのだろうか。だとすれば、斧は伐採=破壊の道具ではなく生産=育てる道具としたのだろう。木を伐って森を育てる。どちらにせよ、昔の人々の自然への思いが感じられる。

今、出番のなくなった斧達が倉庫の隅で呼びかける。
何か忘れてるよ (コラム担当 ガ)

編集後記

創刊号で「マンガが読めない！」との声を頂き、今回は大きくしてみました。これからもどしどし東近江森林整備課までご意見をお寄せください！HPは「東近江 森林整備課」で検索してね！ (編集担当 山口)